ところで、本というのは、いったい何だろう?

何のために人は本を読むのだろうか? 本選びの話をするまえに、この本質的な問いかけをまずしたいと思う。これを明らかにしないと、本の選び方について語ることが難しい。

実は、簡単なことである。人は、何故他者と話をするのか、何故他者を見るのか、他者を気にするのか、他者と知合いになるのか、

やめさせようとまた別の人が間に入る。 社会という群れの中にあって、人は沢山の人に出会う。話をし、議論をし、ときには争いもする。喧嘩になるときも珍しくない。その喧嘩を これは、驚くべきことではないだろうか。動物でいうと、水牛の群れみたいなものかもしれない。それが人間の社会である。そして、その② 社会には、自分一人が存在するのではない。沢山の人間がいる。みんながそれぞれ勝手に生きている。本当に大勢がわりと近くにいる。

ことは、顔を見たってわからない。 自分の行動は、自覚できる。考えていることもわかる。[[A]、他人の行動は、目の前にいなければ見ることができない。考えている ____、他者に出会ったりしたときに、話をすることになる。言葉でコミュニケーションを取る。

気づけば、みんながそれを知ることができるからだ。 できるのだ。これが、群れを成している最大のメリットだといえる。沢山で集まっているほど、この情報収集能力が高まる。誰か一人が つまり、自分の時間と空間内では経験できないことであっても、他者と出会うことによって、擬似的に体験できる。人を通して知ることが

この言葉によるコミュニケーションが、文字に代わったものが本なのである。

場合、それはその本の著者であり、またあるときは本の語り手(主人公)といえる。 になれる。先生、友達、あるいは恋人と、本によってどんな「人」なのかという違いはあるけれど、ほぼ「個人」である。◯◯◯◯」、多くの 結局、本というのは、人とほぼ同じだといえる。本に出会うことは、人に出会うこととかぎりなく近い。それを読むことで、その人と知合い

問題視されている、という見方もあるかもしれないが、単に無理につながろうとする反動というのか、明るすぎるから陰がくっきりと目立って(④ はずだ。今ほど、大勢の人間の言葉が聞け、 大多数の人間は、ほとんど他者とコミュニケーションを取らなかった。取ったとしても、せいぜい自分の家族、集落の一部の人間だけだった という意味である。ただ、狐独な人間が増えている、とは僕は認識していない。何故なら、人間の歴史を過去へ向かって眺めれば、そもそも いるだけとしか捉えられないのである。 友達がいない、仲間に入れない、年老いて一人になった、といった「孤独」が問題視されている。そういったものがニュースになる、 自分の言葉を聞いてもらえる時代は存在しなかった。そんな情報力ダの今だからこそ孤独が

あいつと少し話をしてみよう、といった感覚だ。そして、そういった場合には、二つの方向性が求められている。 それはさておき、本選びは、結局は、人選びであり、つまりは、友達を選ぶ感覚に近いものだと思える。誰か面白そうな奴はいないか、 そういった場合には、二つの方向性が求められている。

楽しい出来事に遭遇したのだ。それを教えてもらおう、といった感じで本を選ぶ。この方向性は、若いときには主流だったのではないだろう か。若者には、ほとんどのものが未知だからである。 「未知」である。あいつは、自分の知らないことを知っていそうだ。なにかにやにやして面白そうな表情をしている。きっと、

相性がぴったりの人と出会いたい、と大勢が望んでいるようだ。同様に、本についても、自分の意見を後押ししてくれるものを読みたい。 いう心理で本が選ばれるのである。 もう一つは、「確認」だろう。自分が考えていることに同調してほしい、そういう友達がほしい。だから、だいたい自分と同じものが 同じ興味を持っている人と知合いになりたい。この傾向は最近では特に顕著で、ネットで検索が楽になったこともあってか、自分と 「そうだ、そうだ、やっぱり思ったとおりだ。これで良かったのだ」と思いたい。読むことで自身を承認してもらいたい、と

これは、人間に対しても同じで、僕は、趣味や意見が同じ人と知合いになりたいと思ったことがないのだ。今の奥様(あえて敬称)も、僕 とは性格も趣味もなにもかもまったく一致しない人で、意見なんかことごとく異なっている。しかし、そういう違いこそが僕は大事だと 僕の場合を書いておくと、僕は完全に前者で本を選ぶ。後者で選ぶものは、趣味の雑誌くらいだろう。一般の書籍ではほぼありえない。 □ と知合いになることが、そもそも知合いになる価値なのではないか、と思えるのだ。

どちらが正しくて、どちらが間違っているという話ではない。ただ、自分と違うタイプがいることだけは認識した方が良い。そんな認識が なる人もいれば、自分と同じものを他者の中に見つけて、その共感が嬉しくて、その後の人生で支配的になったという人もいるだろう。 の人など)がどんな人たちだったかにも影響を受けるはずだ。自分にないものを他者の中に見つけて驚き、そのときの驚きが人生の指針と これは、個人的な感覚、その人の育ってきた環境によって違うだろう。それこそ、接してきた他者(両親、家族、あるいは近所の人、学校 あなたが今この本を読んでいるように、知らない人の話を聞いたからなのである。

波線部①~⑦のカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで答えなさい。

次の中から選び、記号で答えなさい。 傍線部①「何のために人は本を読むのだろうか?」とありますが、筆者はその答えをどう説明していますか。最も適当なも

- 人がなぜ他者と話をしたり知り合いになったりする必要があるのか、その理由を明らかにするため
- たくさんの種類の本を読むことで、たくさんの人間との間で起こる争いを防ぐ方法を学ぶため。
- 社会にはたくさんの人が存在するという、実際にはなかなか気づけないことを実感するため。
- たくさんの本と出会うことで、自分一人では経験できなかったことを間接的に経験するため。

傍線部②「驚くべきこと」とありますが、 その内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

社会には自分と似た人がいないこと 他者と知り合いになる必要があること

ウ

さまざまな人が一緒に暮らしていること

エ

自分の考えていることが理解できること

問五 一度しか使えません。) 空欄 💹 🖍 📗 C 📗 に当てはまる語として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ところで イ だから ウ それとも I そして

傍線部③「最大のメリット」とありますが、その例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- わからないことがあっても、すぐに人に頼らずに、自分で辞書を引く習慣を身につけた。
- 家ではわからなかった宿題が、クラスのみんなと一緒に解いてみたらわかるようになった。
- パソコンやスマートフォンを活用することで、海外のニュースにも興味がわくようになった。
- クラブで友達ともめてしまったが、家に帰り冷静になってみて、自分が悪かったと反省できた。

問七 傍線部④「明るすぎるから陰がくっきりと目立っている」とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、

- 多くの人と関わりを持てる現代だからこそ、昔は当たり前だった「孤独」が逆に目立ってしまっているということ。
- 家族や近隣の人といった身近な人とさえも、関わりを持とうとしない人が多くなってしまっているということ
- 自分の話を聞いてもらえる人と聞いてもらえない人との差が、昔より大きくなってしまっているということ。
- 情報収集が上手な人がいる一方で、情報収集がうまくできない人が増えてしまっているということ。

問八 傍線部⑤「そういった場合」とありますが、 これはどのような場合ですか。本文中より五字以内で抜き出しなさ

傍線部⑥「後者」とありますが、これが指す内容を最もよく表している語を、 本文中より一語で抜き出しなさい。

□ に当てはまる語句として最も適当なものを次の中から選び、 記号で答えなさい。

- 自分にないものを持っている人
- 自分と考え方がよく似ている人
- 自分の意見に賛成してくれる人
- 自分を必要としてくれている人

問十一 傍線部⑦「自分と違うタイプがいる」とありますが、 を使って四十字以内で答えなさい。 筆者はこの違いが生まれるのはなぜだと説明して いますか。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(答えに字数指定のある問題では句読点や記号も一字と数えます。)

7 六十代 + 七十歳以上	オ五十代カ	-代 エ 四十代	ウ三十代	イ 二十代	ア十六~十九歳
	記号で答えなさい。	○ に当てはまる語句として適当なものを次の中から選び、記号	して適当なもの	てはまる語句と-	問六 空欄 C に当
	記号で答えなさい。	次の中から選び、	ウ 過半数して適当なものを	イ 圧倒的多数てはまる語句と-	ア ごく少数 ご
工 考えるに	ウ 必ずや	いずれも	イ	アいずれは	(4) 「早晚」
		過去に使われた例え		誤った	
エ 一定の違いで	ウ差別的に	ひねりがなく	1	アほぼ差が無く	②「等差的」
** / / °	これ選び、記号で答えなさ	最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、	こて最も適当か	の本文中での意味として	問四 傍線部②~④の本・
キ 助動詞 ク 名詞か使えません。)	副詞 オ 連体詞 カ 助詞 キ 助動記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。		形容動詞	形容詞 ウの品詞名を次の中	ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ問三 二重傍線部@~廛の品詞名を次の中からそれぞれ選び、
		考えが間違っているそうです。	エ 考えが	うです。	ウ、試合には勝ちそうです。
	答えなさい。	うったと、同さ合し、いった。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	イー とうで	7 と文法的用:	問二 傍線部①「そうで・
. Ta	エ と合致してい	ている イ から外れている ウ が関係している エ と合砂(上)に当てはまる語句として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。	から外れている	イ かられてはまる語句と-	ア に重なっている
しかも若い世代ほど本来の意味で使っていない人が多くなっています。早晩、本来の意味で使われることはなくなる可能性が濃厚です。	本来の意味で使われるこ	ヽなっています。早晩、L	いない人が多れ	の意味で使って	しかも若い世代ほど本来
④()でいない人が二二・ハポイントも増加していることになります。	ない人が二二・ハポイン	ントも減少し、使っている	一五・ハポイン	使っている人が	約十年間で本来の意味で使っている人が一五・ハポイントも滅少し、
使っていない人が三二・四%でしたから	© %	約十年前の二〇〇四年度の調査では、本来の意味で使っている人が[。る] という意味は思い浮かばなくなったのでしょうか。	及の調査では、浮かばなくなっ	前の二〇〇四年度いう意味は思いる	それにしても、約十年前の二〇〇四年度の調査では、本来の意味で使っ「世間」で「擦れる」という意味は思い浮かばなくなったのでしょうか。
「ずれ」に解されてしまったのでしょう。「擦れる」意味の「ずれ」には「床ずれ」「靴ずれ」「股ずれ」など類例がたくさんありますのに	れ」「靴ずれ」「股ずれ	味の「ずれ」には「床ずり	「擦れる」意	ったのでしょう。	「ずれ」に解されてしま
宀と連濁にしたので外れる意味の	の連濁形です。「ずれ可能性があります。	てる一の連用形「すれ」な話しても全然通じないず	,れ一は「擦ね一代の若者と今	こ間ずれ一の「ざるれでは私が」	言うまでもなく、「世間ずれ」の「ずれ」は「擦れる」の連用形「すれ」の連濁形です。五%にも足りていません。これでは私が十代の若者と会話しても全然通じない可能性があります。
一番少ない[【C】]歳は四・九%と	で、	。 人は、七十歳以上は五四・二%と 8	味で使っている	みに、本来の意は	持つのは当然です。ちなみに、本来の意味で使っている人は、
^、私が本来ではない意味に違和感を	七十歳以上では半数を大きく割っており、		つなくなってい	(ほぼ等差的に小) ②	のように、年齢に従ってほぼ等差的に少なくなっています。七十歳以上=三二・七%② ① ① 七十歳以上=三二・七%
					六十代=四五・七%
					五十代=五一・二%
					三十代=七〇・八%
				1	=七九・八%
		八は、	で使っている。	四% 来とは違う意味で	十六~十九歳=八五・四% 年齢別にみますと、本来とは違う意味で使っている人は
®── これでは、本来の意味で正しく使ったと思っていても通じなくなります。 ことの意で使うのは誤り」と注記しています。しかし、本来ではない意味に使っている人が半数を超えたとなると穏やかではありません。	っている人が半数を超る	過じなくなります。 ④ 本来ではない意味に使	芯っていても通ます。しかし、	一本来の意味で正しく使ったと思っていても通じ本来の意味で正しく使ったと思っていても通じ 本来の意味で正しく使ったと思っていても通じ	これでは、本来の意味でことの意で使うのは誤り
◎────────────────────────────────────	第二版(二〇一〇年)	私の編集した『明鏡国語辞典』第二版(二〇一〇年)でも、ジャが三五・六%で、過半数の五五・二%の人が本来とは違い	(おり、私の垣	う意味で使われて	以前から、本来とは違う意味で使われており、 ◎ 以前から、本来とは違う意味で使われており、
の二〇一三(平成二十五)年度調査(二〇一四年三月の二〇一三(平成二十五)年度調査(二〇一四年三月		る「国語に関する世論調質々な、ことで	年実施している	す。文化庁が毎	-1 0
考え「A」一ことと理解している	す。それを「世の中の考え」	「世間を渡ってずる賢くなっている」ことです。	を度ってずる	,	「世間ずれ一の本来の意味は、

問七 空欄 D に入る数値を算用数字で答えなさい。

この本文を読んで、五人の生徒が会話しています。生徒A~Eのうち、本文とは合わない発言をしている生徒を二人選び、A~Eの

生徒A:「世間ずれ」を本来とは違う意味で使っている人の割合は、年齢が高くなるにつれて等差的に高くなっているね。

生徒〇:「世間ずれ」は「擦れる」が濁って「ずれ」となった語が「ずれる」と混同して本来ではない意味に使う人が増えたのでは、 生徒B:本文に記載されているデータから見ると、現在「世間ずれ」については、過半数の人が本来と違う意味に使っているんじゃないかな。 と筆者は推測しているわ。

生徒D:そうだね。言葉ってその言葉の中に新しい意味を見つけ出して、意味を変容させていくものだし、筆者はその立場でも言葉を

生徒E:けど、年齢に関係なく言葉は正しく使うべきだと思うな。「世間ずれ」が本来の意味で使われなくなるだろうと筆者は予見

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。〈答えに字数指定のある問題では句読点や記号も一字と数えます。〉

三文にて歯二つ取り給へ」とて、虫も食はぬに良き歯を取り添へて二つ取らせて、三文取らせつ。心には利分とこそ思ひたれども、疵なき。 歯を失ひぬる、大きなる損なり。これは申すに及ばず、大きに愚かなる事、をこがましきわざなり。 ただにて取るべけれども、心様の憎さに、「ふつと一文にては取らじ」といふ。やや久しく論ずる程に、おほかた取らざりければ、「さらば② 歯を取らせむ」とて、かの唐人がもとに行きけり。歯一つ取るには、銭二文に定めたるを、「一文にて取れ」といふ。少分の事なれば、南都に、歯取る唐人ありき。ある在家人の、慳貪にして利養を先とし、事にふれて商ひ心のみありて、徳もありける者が、「虫の食ひたる注*

しき心に住しき。 世間の人の利養の心深き、事に触れて利分を思ふ程に、因果の道理も知らず、当来の苦報もわきまへず、ただ眼前の幻の利に

(『沙石集』による。

【語注】 注1 南都…現在の奈良県。

注2 慳貪…けちなこと。

注3 文(もん)…お金の単位。現在の金額で一文は三二.五円。

注4 身の後…死んでからの世界。

注5 上代…昔の時代。

問一 二重傍線部@「行き」、⑮「定め」、⑥「取らせ」、❻「失ひ」の主語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。 記号を何度用いてもかまいません。)

オ

ア 唐人 イ ある在家人 ウ 虫 エ 世間の人

問二 傍線部①「唐」とは、現在のどの国を指していますか。次の中から選び、記号で答えなさい

ア中国 イ インド ウ 九州 エ 韓国 オ ベトナム

問三 傍線部②「ふつと一文にては取らじ」とは「決して一文では取るまい」という唐人の決意ですが、 したのですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。 なぜ唐人はこのように決意

ア 抜歯には二文必要なのに、在家人が一文しか持っていなかったから。

イ ちょっとしたことなので、一文払ってもらう必要もないと考えたから。

ウ わずかな金額を値切ろうとする在家人の態度が憎たらしかったから。

T 三文で二枚の歯を抜いたほうがお得だと在家人に教えたかったから。

問四 傍線部③「おほかた取らざりければ」の現代語訳として最も適当なものを次の中から選び、 記号で答えなさい

ア いっこうに歯を取らなかったので

ウ

ほとんどの歯を取ってしまったので

✔ 代金を全然受け取らなかったので

Ⅰ より多く代金を取ってしまったので

向五 本文の内容と合致するものには1、合致しないものには2で答えなさい。

▶ ある在家人は、一文で抜歯してくれるという噂を聞いて、唐人を訪ねた。

- ある在家人は、虫歯を抜いてもらうために別の無傷の歯も抜いてしまった。

, 一本を抜歯する価格は二文だが、唐人は善意で無料にしてあげようとした。

↑ 在家人が無傷の歯を抜いてしまったのは、日ごろの行いに対する仏罰である。

1 世間の人々は目先の利益に目を奪われ、仏道の大切なものを見失っている。

ル 昔の人々は、素直に仏道の教えに従って欲深くなく、歯も一文で抜いていた。

(D (<u>a</u>	<u> </u>	1	七	(E)	4	3	2	1	六							1	5 I							1
		3	2	1	次	5				1	次					B 群	A 群		群次					B 群	A 群	
1	主人	場	期末	大け	の ①	0	誰が	無く.	今日	用の	次 の ①					群	石井	情け	群 か ら ①				i	6 ‡	群	晴耕
-	50000000000000000000000000000000000000	のセ	テスー	がかい	\$ ③	この怪我が治せば、	との	た	は雨が	角の書店では、	\$ ⑤	コ	ケ	ク	+	カ	ア	は□	そ ら れ ⑤	⊐	ケ	ク	+ :	カ	ア	·耕 □ 読
Ì	から みこう	1 グ	トに	から劇か	の傍	が治	役を定	と思	が降	II,	の 傍	悪	昔	善	事	わぜ	鯛	の た	ぞのカ四	言数	小	万	時	事	無	
د د د ا	が、	フライ	向 け t	的 な フ !	線 部	ば	測じぇ	したと思ったノ	ってい	雑	線 部	CCV	からの	17 は 300	夫を如	かかか		□のためならず	B群からそれぞれ選び、次の①~⑤の四字熟語	果のト	こな	がはい	且にかり	則 の EX		(a)
	人 相互 の為力が必要だ。	インた	た入会	ノッセ	のカ	ŧ *-	つかが	- 1	は雨が降っているが、	砂が貝	~⑤の傍線部には、	 	習慣	巡って	握出	な元毛	1	ら ず	、語	上だけ	未団で	つ t	時宜にかなった、	事前の騒ぎば	1	2
などな	•	担当	ななり	を果	タ カ	に試会	決め	トを、		雑誌が早売り		悪い	はす	自分	事実を把握せずに、	で大	· 人		号口で	で	ŧ	流転		かり	雨	泰□鳴動
建康な生舌を送り を受 機能を高かる。		工場のセイゾウラインを担当する。	期末テストに向けた入念なタイサク。	的なフッキを果たす。	ナ を	に出	そい	部屋	昨日は	إ	とし	: 2	ぐに	に返		入きな	~	2	答当て	一手く	こいか	万物はいつも流転して、	悠々	大 き		動
ર્ક		0	ク	°o	次の①~③の傍線部のカタカナを漢字で、	また試合に出られるだろう。	どの役を演じるかが決めていないので、	部屋の隅で見つかった。	晴れ	していた。	文として誤りがあります。	悪いことには悪いことが重なるということ。	昔からの習慣はすぐには治らないということ。	善行は巡って自分に返ってくるということ。	平静な状態で	わずかな元手で大きな成果を挙げること。		海老	それぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)~⑥の四字熟語の□に当てはまる最も適当な漢字をA群からそれぞれ選び、	言葉の上だけで上手く話して、	小さな集団でもよいから、長となるべきということ。		悠々自適の生活を送ること。	かり大きくて、		
						るだ	ので	で 見	晴れている。	0	り が	なる	らな	くる	状態	を 挙	ウ	海老で□を釣る	いる		長と	変化や消滅がたえないこと。			ウ	3
					4	ろう		つか	る。		あり	۲,	と	۲ ۱۱	でい	げる	仏		取ら	他人	なる	消滅	活	際 の 	鶏	
					⑤ の	٥	し合	た			ま す) :	いう	うこと	いること。	2		る	同週ピー	をご	べき	がた	送る:	結果		□□牛後
					傍 線		いを	Ü				٤	ک	٥	٥		I		記な	まかせ	ک ۱۱	スない	ر ۲	が 小 ン	I	後
					部 の		話し合いをしよう。				の 誤						蜂	3	は 子 一 を	他人をごまかすこと。	フこと	こと	,	実際の結果が小さいこと。	暮	
					漢 字		,				り を							知ら	度 A し 群	٥	٥	٥		ک د		4
					の 読						正 し						オ	知らぬが□	か か 使 ら						オ	諸
					み を						く 書						雀		え そ ま れ						山	諸行 □常
					⑤の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。						その誤りを正しく書き直しなさい。							4	(同じ記号は一度しか使えません。9適当な漢字をA群からそれぞれ骤							ф
					がな						し な								。選)び							
					で 答						ない							泣きっ								(5)
					え な						8							面に	号 で							朝三
					さい														記号で答えなさい。							朝三□四
					0														なさ							
																		(5)	ű							
																		百百	ま た、							
																		まで	<i>L</i> , z							
																		□百まで踊り忘れず	そ の 意 味 を							
																		忘れ	忌 味							
																		す	を							

匹

